

多摩部の都立公園では、レンジャーが自然を守り、その素晴らしさを伝えています。

多摩部で見られるへび

*東京都にもともと住んでいた すべてのは虫類が出ています

● 体にうすいたてじま



● アオダイショウ ナミヘビ科

● 長さ：2m近くになる
もっともふつうに見られる。全体にくすんだ緑色で、うっすらたて線が見える。木登りも泳ぎも上手で、鳥のひな、ネズミ、カエルなどを食べる。

● 体は太くみじかく くさりもよう



● マムシ クサリヘビ科

● 長さ：40~65cm
有名な毒ヘビだが、動きはにぶく、まちがえてふんだり、いじめたりしなければ、かまれることはまずない。最近では数が減り、ほとんど見つかっていない。

● 首のまわりは黄色、オレンジ



● ヤマカガシ ナミヘビ科

● 長さ：1.5mほどになる
カエルが好物で、田んぼや池の近くでよく見られる。毒のあるヒキガエルもよく食べる。上あごの奥に毒のきばがあるが、性格は大人しく、かまれても毒のきばがささらないことも多い。



● シロマダラ ナミヘビ科

● 長さ：30~70cm
小型で夜行性のへびなので、なかなか人目につかない。白黒のまだらもようで、見分けやすいが、大人になると全体が黒っぽくなる。(上の写真はこども)

よく見られる順に左から並んでいます

● 目が大きくてかわいい



● ヒバカリ ナミヘビ科

● 長さ：40~60cm
小型の、たいへんおとなしいへび。森、草地、湿地など、いろいろなところに住み、曇りの日や、雨の日によく出てくる。体は細く、体に模様はなく、首の後ろにだけ白いところがある。



● タカチホヘビ ナミヘビ科

● 長さ：30~70cm
小型で夜行性、かつ地中にあることが多いので、なかなか人目につかない。雨上がりの夜に見つかることがある。うろこがビーズのようで、キラキラ光る。

● は毒のないへび ● は毒のあるへび

● 体に黒いしま



● シマヘビ ナミヘビ科

● 長さ：1.5mほどになる
昼間によく動き、カエルや、他のへび、トカゲなどを食べる。気があらく、目つきがするどい。泳ぎはうまく、木に登ることもある。水辺近くでよく見られる。

● あたまは小さく 首が細まらない



● ジムグリ ナミヘビ科

● 長さ：1mほどになる
森の落ち葉の下や、他の動物の穴によくもぐり、自分でも穴をほる。ネズミやモグラをよく食べる。こどものときは頭にまだらもようがあることが多い。

ポーズでわかる へびのきもち



おこった かむぞ！
=首を引いてこちらを見る



こわいよう
=頭を体の下に入れる



のんびりリラックス
=うずまきのようにまるくなる



もうダメ いじめないで
=あたまをうらがえす

多摩部の都立公園では、レンジャーが自然を守り、その素晴らしさを伝えています。

多摩部で見られる とかげ かめ



● 体に光沢がある

オスは戦うため頭が大きい

こどもは尾が青い
メスは黒っぽく
頭が小さい



● 体に光沢がない

▲ニホントカゲ トカゲ科

● 大きさ：20～25cm

日がよく当たる場所、建物や道の脇などでよく見られる。ニホンカナヘビよりはずっと用心ぶかく、すぐかくれる。またつかまりそうになると、すぐ尾を切ってしまう。

▲ニホンカナヘビ カナヘビ科

● 大きさ：16～27cmほど

草むらなどで普通に見られ、小さな虫やクモなどを食べている。よくニホントカゲとまちがわれるが、光っていないので見分けられる。つかまりそうになると尾を切ってしまう。



▲ニホンヤモリ ヤモリ科

● 大きさ：10～14cm

人家や倉庫などに住んでいて、夜、光に集まるガや、ゴキブリなどの虫を食べる。壁を登るのがとても上手い。頭が大きく、ずんぐりしている。つかまりそうになると尾を切ってしまう。



● 目の後ろが赤い



■ ミシシippアカミミガメ

ヌマガメ科 *緊急対策外来種

● 大きさ：30cm近くになる
北アメリカのカメだが、ペットとして持ち込まれ、日本中に広まってしまった。目の後ろが赤く、小さなときは色が鮮やか。大きくなると気が荒くなる。



つめ3本

■ スッポン スッポン科

● 大きさ：30cm以上になる
ゆるやかに流れる川や池などに住む。甲はたいらで、やわらかな皮でおおわれる。鼻はとがり、シュノーケルのように水の外に出せる。足はヒレのような形だが、前後とも3本の爪がある。

● 背に三本すじ



■ クサガメ イシガメ科

● 大きさ：30cmほどになる
流れのゆるやかな川や、田んぼ、池などに住む。背中に筋になったふくらみがあり、これをキールとよぶ。クサガメのキールは3本。足の付け根からくさいにおいを出すのが名前の由来。

● おしりギザギザ



■ ニホンイシガメ イシガメ科

● 大きさ：20cmほどになる
水の流れがある、やや冷たい川でも生きていけるが、汚れた水は苦手。公園の池などではまず見られない。背中のキールは子どもとき3本、大人では1本。甲のうしろはギザギザ。

トカゲのしっぽ切り

トカゲやヤモリの仲間は、敵におそわれると身を守るためにしっぽを自ら切って、敵がしっぽに気を取られているうちにその場から逃げることが知られています。この切れたしっぽはしばらくはその場でくねくね動き続け、敵を引き付けます。

しっぽはまた生えてくるので、見た目は元通りになります。ただし切れる前と同じように戻ることはなく、また生えてきたしっぽは自ら切ることができなくなっています。1度きりの捨て身の防御なのです。トカゲ達が厳しい自然界でも生きていけるように、いたづらをしてしっぽが切れてしまわないよう気を付けましょう。



切れてから再生したニホントカゲのしっぽの途中から模様が変まっているのがわかる